



2. 株式の歴史

「株式」の考え方はどうやって生まれたのか？

この【株式を使ってお金を集める】というアイデアは実際にはいつごろに、どんなキッカケで生まれたのでしょうか？



株式誕生の背景

これについては、いろいろな説があります。

最も広く信じられている説では、

17世紀初めにオランダ人が「東インド会社」を作った際に株式を発行したといわれています。

東インド会社がつくられた時代は、

大航海時代と呼ばれていました。（ONE PIECEかよww）

オランダやイギリス、そのほかヨーロッパの強国たちが、
船で大海を航海し、植民地を手に入れていった時代。



航海に成功してアジアに無事たどり着き、アジアの香辛料をヨーロッパに持って帰ることができれば、莫大な利益が得られるという情報がありました。

しかし、船をつくるには多額の資金が必要となり、さらに航海の途中で難破や沈没したり、海賊に襲われたりと、常に危険がつきまといます。

せっかく大金をつぎこんでも、利益にならないかもしれません。

POINT

危険に遭ったとき

お金を出した一人一人の損失をできるだけ小さくしたい

少数でお金を出し合うのではなく、

多くの人たちでお金を出し合おう！

「株式」が発明される



実はこれも株式のおかげ!?

【たくさんの人にお金を出し合ってもらう】という考え方は、とても重要な役割を果たしています。実は私たちがガソリンの原料である石油を買うのも、株式のおかげなのです。

資源というのは私たちが生活していく上で、必要不可欠です。

しかし、石油が眠っている地下数千メートルの油田を探し当てる「石油開発」で、ひとつの穴を掘るためには、数十億円以上の資金がかかります。

運良く油田が一発で見つかった場合はたくさんの利益が入ってきますが、期待通り油田が見つかるのは、100回掘ったうち、せいぜい2、3回くらい。

もちろん見つかるまで利益は出ませんし、出ても出なかった穴の掘削代の回収には時間がかかります。

航海の例と同じく、石油の開発に**少人数で資金を出す**というのは、かなり勇敢な行為です。

見つかるか見つからないかわからない油田に、大金を払い続けようという人がたくさんいるわけではありません。

そのため、石油開発や資源開発をする際にも、

「株式を発行し沢山の人々から資金を出資してもらおう」

という方法を採用しています。

私たちが車に乗って遠くに行けるのも「株式」のおかげだ、ということですね！（凄すぎる...）



魔弾の結論

沢山の人が資金を出し合って
一人一人のリスクを少なくする

という考え方から発明されたのが「株式」

今ある生活の様々なものが株式のおかげ

